

ふげん道路ピット東法面下段 スケッチに示された地層の色調 (No.156) を修正

従前

見直し後

第833回審査会合

資料1

敦賀発電所2号炉敷地の地形、地質・地質構造について (コメント回答)

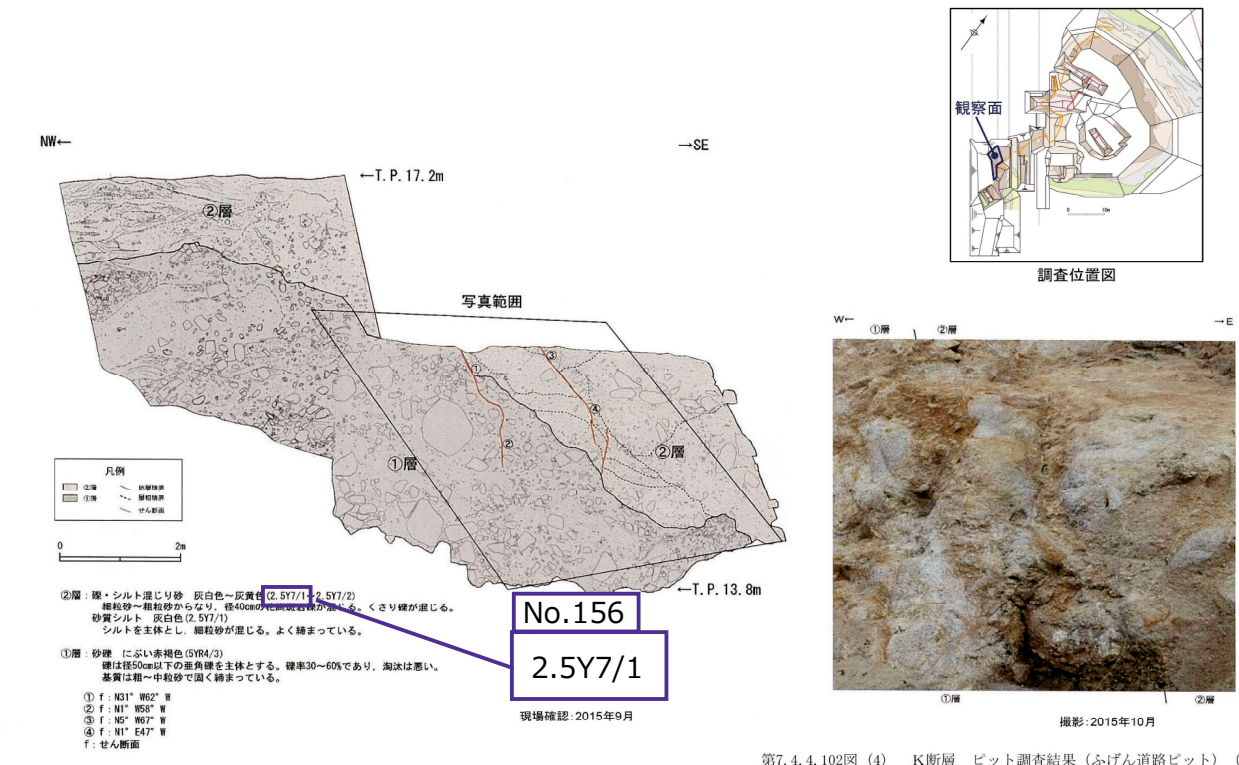
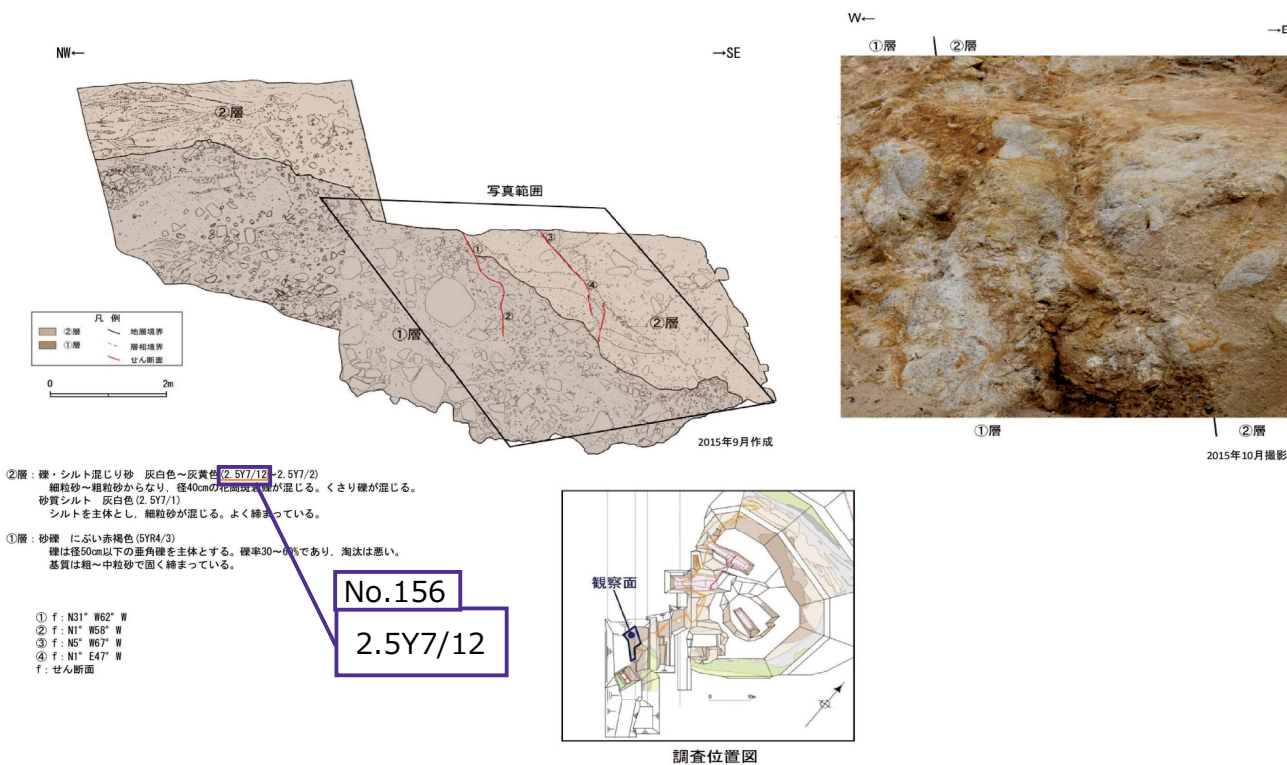
41頁

第833回審査会合 資料1に追記(青太枠)

K断層の連続性評価について  
K断層の性状(ふげん道路ピット)

K断層の南方への連続性を追跡、確認した結果、K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認。

K断層の南方への連続性を追跡、確認した結果、K断層はふげん道路ピットの中央付近まで連続していることを確認できる。



## 1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・最新活動面の深度を37.86mから37.91mに修正 (No.157-追1)

【理由】当該箇所データはすべて破砕部下端 (深度37.91m) で取得していたことから、記載を修正

・断層ガウジの幅を0.2cmから0.4cmに変更 (No.157-追2)

【理由】再観察の結果破砕部上端と下端に各0.2cmの断層ガウジがあると評価したことから、合計値の0.4cmの変更

【断層連続性評価への影響】なし

## 2. 変更箇所

a 最新活動面を示す赤矢印の位置を破砕部上端に修正 (No.157-追1)

b 断層ガウジの幅を「0.4cm」に変更 (No.157-追2)

c コア写真の断層ガウジを示すカラーバーを破砕部上端と下端に変更 (No.157-追2)

H24-B14-1孔深度37.86~37.91m 断層ガウジの幅 (No.157-追2) を変更

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形、地質・地質構造について

参考資料2 性状一覧表

参考2-107頁

第833回審査会合 机上配布資料2に追記(青太枠)

10.D-29~D-47破碎帯  
性状一覧表(1/10)

層番号	深度 (m)	層厚 (m)	地質 (地質記号)	性状 (性状記号)	備考	深度 (m)	層厚 (m)	地質 (地質記号)	性状 (性状記号)	備考
10.D-29	37.86	0.20	砂	砂		37.86	0.20	砂	砂	
10.D-30	12.00	12.00	砂	砂		12.00	12.00	砂	砂	
10.D-31	43.10	0.02	砂	砂		43.10	0.02	砂	砂	
10.D-32	9.07	0.00	砂	砂		9.07	0.00	砂	砂	
10.D-33	4.04	4.00	砂	砂		4.04	4.00	砂	砂	
10.D-34	4.00	4.00	砂	砂		4.00	4.00	砂	砂	

凡例

【破碎帯】  
 土状破砕帯、砂状破砕帯、角礫状破砕帯  
 固結した粘土破砕帯、固結した砂状破砕帯、固結した角礫状破砕帯  
 の合計の幅とし、破砕帯の延長線から真の幅に換算した。

【字書き】  
 字書き：最新活動帯が線画的なもの  
 字書き：最新活動帯が塊状のもの

参考2-107

層番号	深度 (m)	層厚 (m)	地質 (地質記号)	性状 (性状記号)	備考	深度 (m)	層厚 (m)	地質 (地質記号)	性状 (性状記号)	備考
10.D-35	21.63	23.07	砂	砂		21.63	23.07	砂	砂	
10.D-36	37.86	37.91	砂	砂		37.86	37.91	砂	砂	
10.D-37	42.61	42.66	砂	砂		42.61	42.66	砂	砂	
10.D-38	43.10	43.12	砂	砂		43.10	43.12	砂	砂	
10.D-39	61.06	61.22	砂	砂		61.06	61.22	砂	砂	
10.D-40	70.54	71.41	砂	砂		70.54	71.41	砂	砂	

※1 断層帯区分の総合評価に基づき記載し、中央「有」のうち総合評価「無」となる箇所は「-」を記載  
 ※2 斜めボーリングの場合は、計測値を補正した値を記載  
 ※3 卓越しない成分については「-」を記載(固成分「-」は薄片観察を行っている箇所)  
 -(上記以外)データ取得していない箇所

凡例



H24-B14-1深度37.86~37.91m 最新活動面の深度を37.91m (破碎部下端に修正)

従前

見直し後

第833回審査会合

机上配布資料2

敦賀発電所2号炉 敷地の地形, 地質・地質構造について

参考資料1 薄片観察結果

参考1-116頁

第833回審査会合 机上配布資料1に追記(青太枠)

No.157-追1

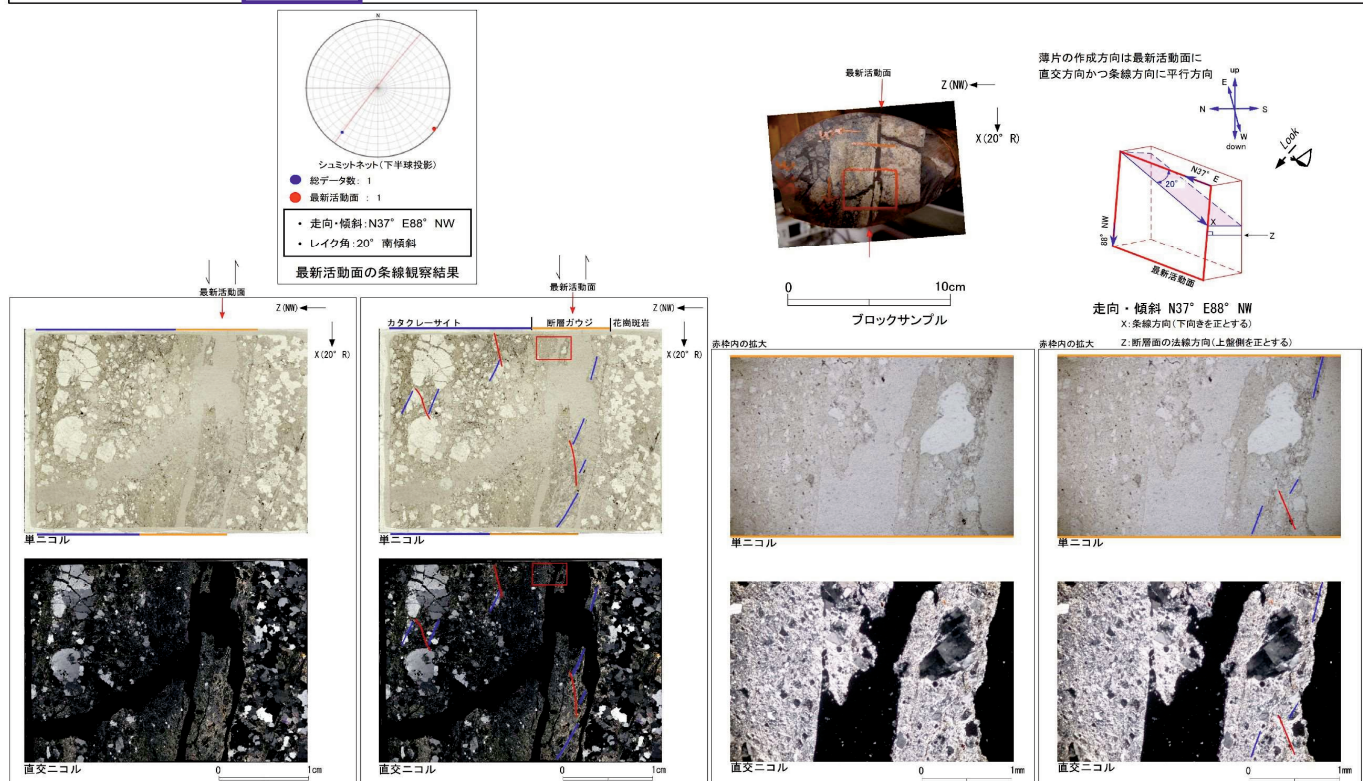
深度37.86m

No.157-追1

(フォーム見直しにより数値の記載なし)

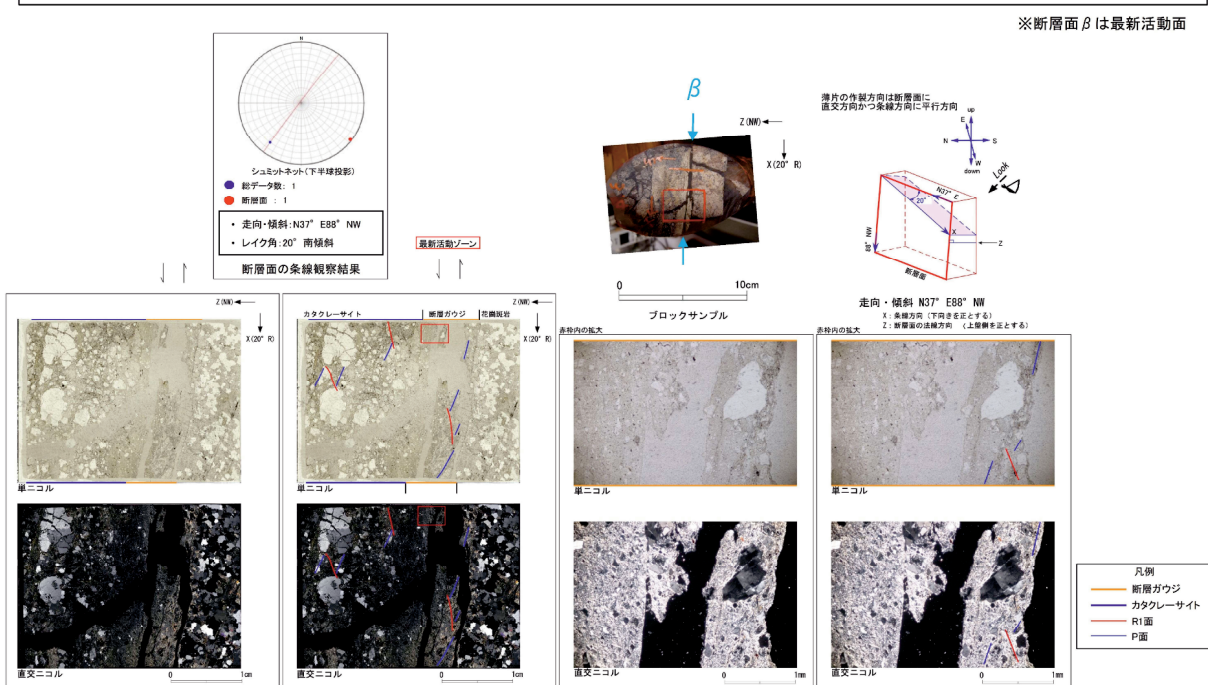
D-29破碎帯 薄片試料観察(H24-B14-1 深度37.86m)

H24-B14-1のボーリングコア(深度37.86m)から採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動面の変位センスは、左ずれ成分が卓越する。



参考1-116

H24-B14-1のボーリングコアから採取した薄片試料の観察結果によれば最新活動ゾーンの変位センスは、左ずれ成分が卓越する。  
 ・最新活動ゾーンに以下の特徴が認められることから、断層ガウジと判断した。  
 > (断層ガウジ) 粘土状部の分布は帯状で直線的かつ連続的である。  
 > (断層ガウジ) 基質は粘土鉱物を主体とする。  
 > (断層ガウジ) せん断構造に伴う粘土鉱物の定向配列が認められる。  
 > 岩片は少ない。



第7.4.4.356図(3) 破碎部性状 H24-B14-1 深度37.86~37.91m (変位センス, 薄片観察による断層岩区分(1/2))



H24-B14-1孔深度37.86~37.91m 断層ガウジの幅 (No.157-追2) を変更

- 従前提示していたデータでは、性状一覧表に断層ガウジの幅を0.2cmと記載していたが、以下のことから、2条の断層ガウジの幅の合計値として、0.4cmが正しい値であるため、0.2cmから0.4cmに変更した。
- コア観察カードには破碎部の下盤側(深度37.91m)に幅1~2mmの灰白色粘土を伴うと記載されており、次頁の研磨片写真でもコアと同様に直線的な細粒部が認められる。一方、コアの再観察結果によると、破碎部の上盤側(深度37.86m)にも細粒部が連続的・直線的に分布していることから、この細粒部も断層ガウジであると判断した。
- それぞれの断層ガウジの真幅を測定し、各0.2cmであったため、合計値として、0.4cmとした。

・深度37.86~37.91mの「粘土混じり礫状」と記載の箇所については、やや軟質であるが、含まれる細粒部は局所的に分布し、連続性及び直線性に乏しく、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められる。これらのことから変質したカタクレーサイトであると判断した。

・一方、深度37.86mには細粒部を挟んでいる。細粒部は軟質で、連続性及び直線性が良く、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジであると判断した。

・また、深度37.91mには灰白色粘土を挟んでいる。粘土は軟質で、連続性にやや欠けるが、直線的であり、原岩組織が認められる岩片を主体とし基質も細粒化した岩片からなる組織も認められない。これらのことから断層ガウジとして扱うこととした。

ボーリング柱状図

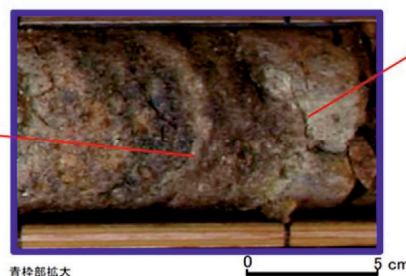
●37.86~37.91m: 破碎部  
 37.86~37.91m: 粘土混じり礫状部 (Hj)  
 上端30°, 下端35°で、幅40mm。褐色を呈し、下端側に幅1~2mmの灰白色粘土を伴う。上端側にも幅数mmの細粒部を挟む。

コア写真



凡例  
 断層ガウジ ← → 破碎部範囲  
 ※: 写真上は白色で記載

細粒部の連続性・直線性が良い



灰白色粘土は連続性にやや欠けるが、直線的である

最新活動面の記載

該当箇所のコア観察カード

37.86~37.91m 断層ガウジ (Hj) 石灰質 50° (主断層: 37.91)  
 厚さ 40mm 上盤 30° 下盤 35° 傾斜 27.5°  
 粘土の記載

粘土の記載

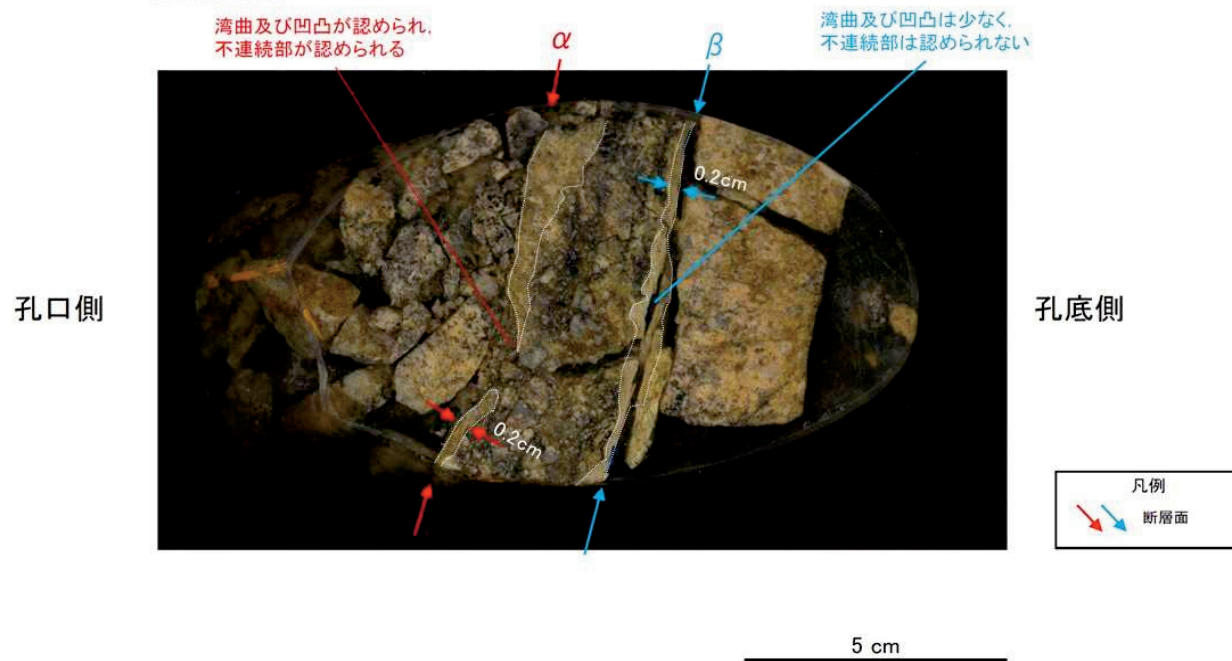
## H24-B14-1孔深度37.86~37.91m 断層ガウジの幅 (No.157-追2) を変更

- 研磨片写真では、断層面 $\alpha$  (破碎部の上盤側) と断層面 $\beta$  (破碎部の下盤側) に脈状の細粒部が認められる。
- 連続性・直線性に富むのは、断層面 $\beta$ 沿いの細粒部であるが、断層面 $\alpha$ 沿いにもコアと同様な細粒部が分布するため、断層ガウジであると判断した。
- それぞれの断層ガウジの真幅を測定し、各0.2cmであったため、合計値として、0.4cmとした。

## H24-B14-1 深度37.86~37.91m 研磨片観察 断層面の認定

- 研磨片観察においても、CT画像観察の結果と同様に断層面 $\alpha$ 、断層面 $\beta$ が認められる。
- 断層面 $\alpha$ は、湾曲及び凹凸が認められ直線性に乏しい。一部不連続部が認められ連続性に乏しい。
- 断層面 $\beta$ は、他の構造に切られておらず、細粒部を伴い、湾曲及び凹凸は少なく直線性に富み、不連続部は認められず連続性に富む。
- ボーリングコア観察、CT画像観察、研磨片観察より、細粒部を伴い、最も直線的な深度37.91mの断層面 $\beta$ を検討対象の断層面とした。

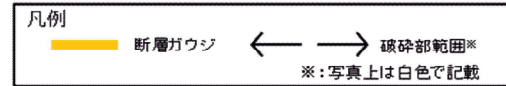
研磨片写真



H24-B14-1孔深度37.86~37.91m 断層ガウジの幅 (No.157-追2) を変更

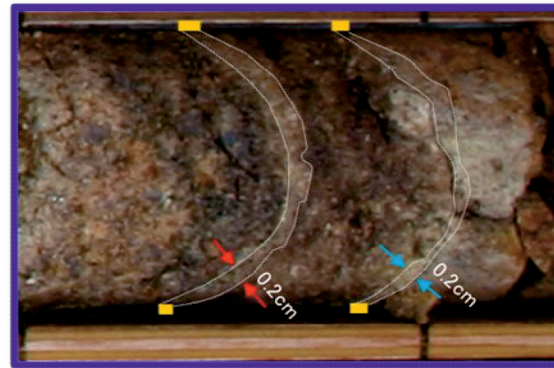
- 破碎部の上盤側と下盤側にそれぞれ断層ガウジが分布する。
- それぞれの断層ガウジの真幅を測定し、各0.2cmであったため、合計値として、0.4cmとした。

コア写真



青粋部拡大

0 5 cm



青粋部拡大

0 5 cm



### 1. 変更内容、理由及び断層連続性評価への影響

・走向・傾斜をN37E84Wに変更 (No.157-追3)

【理由】BHTV画像で確認した結果、孔壁崩壊により取得できないことから、近傍の走向・傾斜を用いて推定したN37E84Wに変更

・条線方向を12Rに変更 (No.157-追4)

【理由】走向・傾斜 (No.157-追3) の変更により、基準方位が変わることに伴う変更

【断層連続性評価への影響】なし

### 2. 変更箇所

a 走向・傾斜を「N37E84W」に変更 (No.157-追3)

b 条線方向を「12R」に変更 (No.157-追4)